

# 会計の仕組みと 利益計算の考え方

補助教材

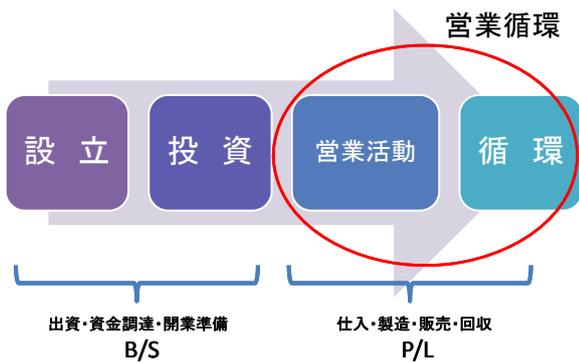
1

## もくじ

1. 会計の仕組みと企業の経済活動
2. 利益計算の考え方

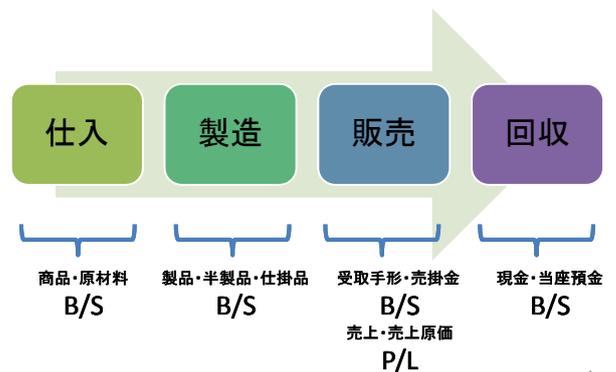
2

### 1. 会計の仕組みと企業の経済活動



3

### 正常な営業循環



4

## 財務諸表

- 以上の企業活動を財務諸表で表示

→ テキスト94頁  
図表6.4

5

## 利益決定の前提(復習)

1. 会計公準
2. 原価主義
3. 資産の定義

6

## 2.利益計算の考え方



ストックとフローの区別は、  
複式簿記＝利益計算の基本

7

## 単式簿記による財務表

- 収支計算書(テキスト100頁)

➡ 単式簿記では  
利益が計算できない。

現金の増加の原因は何か？

(借)現金 100 (貸)借入金 100 ⇒ストック

(借)現金 100 (貸)売上 100 ⇒フロー

8

## 財産法と損益法

- 利益計算モデル

### ■ 財産法

期末資本－期首資本＝利益

### ■ 損益法

収 益－費 用＝利益

テキスト101頁

9

## モデルの比較

	会計思考	会計手続き	評価原則
財産法	静態論	棚卸法	時価評価
損益法	動態論	誘導法	原価評価

Text p.103

10

## 2つのモデルの関係



11

## A/L vs. R/Ex

### ■ 狭義A/L

定義にのみ作用

計算擬制的項目のB/Aからの排除  
繰延資産 Text pp.186-187

### ■ 広義A/L

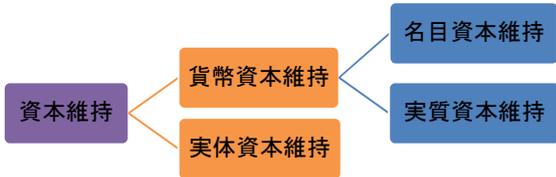
認識・測定にも作用

オフバランス項目のオンバランス化  
公正価値測定

リース会計基準 Text p.224 et ss.

12

## 資本維持論の体系



13

## 資本維持論

- 名目資本維持  
名目貨幣単位での資本維持  
(例)原価主義会計
- 実質資本維持  
実質貨幣単位での資本維持, 一般物価変動会計=株主資本の実質維持  
(例)インフレ会計
- 実体資本維持  
物的資本維持, 個別物価変動会計=経営能力維持  
(例)現在原価会計

14

## 物価変動会計と公正価値会計

	目的	会計手続き	特定の資本概念	測定基準
物価変動会計	架空利益の計上の回避	費用の物価変動修正	あり	入口価格
公正価値会計	有用な投資情報の提供	資産・負債の公正価値測定	なし	出口価格

15

## 静態論と動態論

- 静態論  
19世紀型商法, 債権者保護  
債務弁済能力=財産状態の表示
- 動態論  
20世紀型企业会計, 適正な期間損益計算  
貸借対照表は「損益計算書の生産くず」

16

## 歴史的考察

E.Schmalenbachの用語。ドイツ学説。

- 静態論  
静的貸借対照表論(statische Bilanzlehre)。時点的な財産状態表示・財産計算の機能を重視する会計思考。  
(1)旧静態論:1673年フランス商事王令。1861年普通ドイツ商法典。法的会計思考。債権者保護。債務弁済能力→清算時の財産価値(売却時価)。  
(2)新静態論:企業の継続性を前提。原価主義の枠内で状態表示機能を強調。
- 動態論  
動的貸借対照表論(dynamische Bilanzlehre)。損益計算の観点から会計の構造を説明する会計思考。

17

## 動態論の論理構成

- 一致の原則  
期間利益の合計=全体利益
  - 全体損益計算  
全体利益=全体収入-全体支出  
=全体収益-全体費用
- ∴ 収入=収益  
支出=費用  
全体利益=全体収入余剰

18

## つづき

### ■ 期間損益計算

- ① 期間収入 ≠ 期間収益
- ② 期間支出 ≠ 期間費用

#### ①の例

前受金(代金の一部の前受, 手付金等)は, 「収入であるが, 未だ収益とはならないもの」(収入・未収益) → 負債(将来の収益)

#### ②の例

備品の購入代金は, 「支出であるが, 未だ費用とはならないもの」(支出・未費用) → 資産(将来の費用)

### ■ 期間的未解決項目は貸借対照表に収容

貸借対照表は期間損益計算の連結環。財産状態の一覧表ではない。

19

## 動態論にもとづくB/SとP/L

### 貸借対照表

1. 支出・未費用 前払金等	5. 費用・未支出 未払家賃等
2. 収益・未収入 未収家賃等	6. 収入・未収益 前受金等
3. 支出・未収入 貸付金等	7. 収入・未支出 借入金, 資本金等
4. 現金	

### 損益計算書

当期費用	当期収益
当期利益	

資産 = 前給付(将来, 企業に収益をもたらすもの)

負債 = 後給付(将来, 企業が提供するべき給付)

B/S = 力の貯蔵庫

→ Text p.120

20

## まとめ

1. 企業の経済活動と財務諸表の関係を整理しておきましょう。
2. 財産法と損益法の関係については, 2説があります。その相違を正確に理解しておきましょう。
3. 資本維持論における基本概念について, 十分に復習しておいてください。
4. 動態論の論理構成を理解しておきましょう。

21